

【(3) 言葉遣いや態度】

①「表情、視線、身振り等を意識している」

《つまずきの背景》

A 刺激の影響の受けやすさ、B 言語理解の困難さ、N 注意の持続の困難さ

《解説》

人は相手の話を聞く際、表情や視線、身振り等の影響を受けやすいと言われています。子どもに話をする際に、視線を合わせずに無表情な状態だと、たとえ巧みに話をして、子どもは話を聞かずに心が離れていきます。視線を合わせることで、子どもは「先生はいつも自分のことを見ていてくれる」という安心感が持て、気持ちの結び付きが図られます。本を読むときも板書をするときも、常に子どもの様子を見ながら、理解度を確認することが大切です。また、子どもの話を聞く際に、教師自身が意識して表情に変化を付けることは、子どもの「先生は自分の話を聞いてくれる」という安心感や自信にもつながります。

学級の中には、注意が持続しにくく授業に対して気持ちが途切れやすい子どもがいる場合があります。表情や身振り等を効果的に使うことでメリハリのある授業になり、集中力の持続や気持ちのリセットになります。また、言語表現が苦手な子どもの中には、話をすることに抵抗がある場合があります。教師がよい表情で話を聞くことで、その子どもにとって話しやすい環境になります。

1時限の中で全ての子どもに視線を向け、子どもの様子を把握することが大切です。また、時には明るく、時には厳しく、表情に変化を付けることが大切です。

【工夫点】

- ・うなずいたり、相づちを打ったりしながら話を聞く。(小中高)
- ・学級全員に視線を合わせながら授業を進める。(小中高)

視線

「A君は、興味があるようですね。」
「B君は、少し集中力がなくなっているようです。」
「C君は、困った顔をしています。分からないのかな。」

表情・身振り

「どんな話でも、先生がうなずいて聞いてくれる。」
「安心して話せるな。」
「自信になるよ。」

